

## 勝ち負けへのこだわり

大津 隆文

プロ野球の応援チームは物心ついて以来、生まれ育った名古屋の中日ドラゴンズ。今年こそ二年連続の最下位から大きく躍進してほしいと期待しているが、残念ながら成績は芳しくない。現在のところ借金生活、せめて勝ち越しになってほしい。

ところで私がこだわっている個人的な勝ち負けも、近年は一方的な負け越した。こちらは電車やバスで席を譲った回数（勝ち）と譲られた回数（負け）を数えたもの。人生を借りを残したままでは終りたくない、何とかトントンで終りたいと考え、数えているのが次表。これを見るとコロナ期以降、世の中と私の関係は変わり、もっぱら受益者の立場になったようだ。

年	勝ち (○)	負け (×)
2014	9	10
15	12	8
16	11	13
17	12	6
18	11	6
19	7	11
20	1	1
21	1	1
22	2	8
23	4	12
24	0	9

先日は一日に二回も譲られた。以前は私が立った前の座席の人から譲られるケースがほとんどだったが、この日は離れた席の人が声を掛けてくれた。嬉しかったが、自分はまだ確りしているつもりなのに、外見的にはそんなにもヨロヨロしているのかと、シヨックでもあった。またインバウンドブームの影響か、外国人から譲られたことも最近二回ある。譲られた時はいきよく「ありがとうございます」と手を合わせている。世の中が年配者に親切にしてくれ本当にありがたい。

夕方勤め帰りらしい人から譲られた時は心から申し訳ない気がする。昔ニューヨークの地下鉄で席を譲った時に、「ゴッドブレスユー」と言われて気持ちが明るくなった。善意への感謝をインパクトある日本語で表わすには何と言ったらいいのだろう。

以前席を譲った時に、相手が私の顔を見て「貴方もお歳なのに」と躊躇されたが、「こう見えても男の子ですから」と応えた。この台詞は古いジェンダー意識と笑われそうだが、一度は使ってみたかった。再度使う機会はあるだろうか。それとももう無駄な抵抗はやめ、勝ち負けへのこだわりは捨てる時期だろうか。